

## 盆踊り太鼓が伝えている事

中学二年 H・M

今年も夏がやってきた。夏は大きなイベントが沢山ある。

故郷に帰ったり、プールに行ったり、花火大会や祭りを楽しんだりする人が多いと思うが、私には世間一般の人があまり味わう事のないイベントが待っている。

私は小学三年生の頃から、地域の『盆踊り太鼓』をやっている。一週間に一、二回の練習をし、毎年夏にお祭りや、病院・老人ホームへの慰問で太鼓を叩いている。私が太鼓を始めたきっかけは、小学校一年生の頃、高い櫓の上で太鼓を叩いている人たちがとても格好よく見えたことからだ。今、自分が同じ舞台に立ち、太鼓が叩けていることがとても嬉しい。音楽に合わせて太いバチで力いっぱい叩く。二、三十人で息を合わせて叩くのは難しい。一曲一曲叩き終わった後の爽快感は何事にも代え難いものである。太鼓を叩くリズムは、数字の一く六で成り立っており、それが見事に曲のリズムに当てはまるように組み合わせられている。一つ紹介すると、『四』は皆が一番よく耳にする『ドドンガドン』である。またそれは、どの曲でも一番よく使われるものである。このそれぞれのリズムが曲の音に調和し、その上皆の息が合い、ピタッと揃った音が出ると、とても気持ちがいいものだ。

私が太鼓を習い始めた時、地域の多くの主催者側からオフアーがかかっていたが、今は一部からしか、オフアーがかからない。それに加え、今年一番の大きなお祭りでは、太鼓を叩く時間が盆踊りではあまり考えられない時間帯、十七時三十分頃から十九時頃までの演奏となった。

何故このような事になってしまったのか。

疑問に思った私は、母に聞いてみることにした。すると、母から思いがけない言葉を聞いた。それは、『近所迷惑だと思っている人がいるから』というものだった……。それを聞いて、ショックを受けたと同時にある事を思い出した。それは、この前テレビでやっていたもので、『櫓の周りを回りながら踊っているのだが、音は鳴っていない、太鼓の演奏も無い。しかし、みんなの踊りが揃っている。踊る人は皆、盆踊りの音楽が流れたイヤホンを付けているからだ。うるさいと苦情が入らないために行う、しようがないものである』というものだった。これは一体盆踊りなのかと思うほど悲しい現実である。そして、現代が『昔ながらの盆踊り』というものから離れてしまっているということが目に見える状態となっているのだ。

実際に、私達が叩く太鼓がうるさいと感じ、苦情を言ってきた人がいた。そのため私達は、音楽の音量をやや控え目にし、思いつきり叩かなければ響かない太鼓までも、いつもより弱く叩かなければならなかった。主催者側もお客さん達も喜んでくださっていたのだが、たった一人の苦情が原因で今年はオフアアがかからなくなってしまう。

私は、盆踊りは「皆で楽しく輪になって踊る」ものだと思う。そもそも、音楽が無ければ『盆踊り』ではない。今回、時間を早めたのも、オフアアが無くなってしまったのも苦情がくるのを恐れられたためであろう。

では、何故現代の人達は、皆と一体になれる盆踊りに積極的になれないのだろうか。盆踊りの歴史などから考えていく。

盆踊りは、少なくとも二百年に及ぶ歴史を持っている。念仏踊りが盆踊りへと変化し、村の行事として定着していった。盆踊りは、お盆の時期に戻って来た先祖の霊を慰め、供養するという意味がある。

しかし、現代の盆踊りは、地域の歴史や特産をたたえる『音頭』が作られるなど、昔ながらのお盆の行事としての意識が殆ど無くなっていく。その原因として、一つ目に、地域の繋がりが薄れたり、盆踊りを踊る意味が分からない若い人がいることである。自分には興味がないような曲で踊るよりも、家族や友達と屋台で楽しむ方がいいと思っている人もいれば、盆踊りの輪の中に入って踊るのは気が進まない、と思っている人もいる。しかし、実際に足を伸ばして踊ってみると、新たな楽しみを感じるのではないか。言葉は無くとも一緒に踊っているとコミュニケーションをとっている気分にもなってくる。二つ目の原因として、盆踊りを引っ張っていた人が高齢となり、踊る人が少なくなった事が挙げられる。若い後継者が必要であるのかもしれない。三つ目の原因として、やはり音がうるさいと感じ、盆踊りが騒音に聞こえてしまう人がいるということだ。だが、だからと言って、盆踊りを止めるのは、あまりにも寂しい。

盆踊りは、偶然に前後となった人達とコミュニケーションをとったりして、楽しく踊ることが出来る。また、緩やかな踊りであるため、長時間続けやすい事から、小さな子供や、お年寄りにも気軽に取り組みやすい。運動にもなるため、いいことづくしである。

このように、盆踊りの利点を知れば、参加しようと思う人も増えてくると思う。今年の地域一番のお祭りでは、時間が経つにつれ、多くの人が輪の中に入り、今までで一番多い人が盆踊りに参加してくれた。初めの方は、一人も参加してくれず心配はしていたが、皆がよく知っていて、踊りやすい曲『炭坑節』を何回も叩いているうちに、徐々に人が増えていき、とても嬉しかった。踊っている人の顔を見ると、笑顔が多かった。年代に関係なく、多くの人が楽しそうに色々な人と話していて、叩いている側としても、もっと力強く、そして強弱をつけて叩こうと意識した。嬉しくて、私

自身も楽しく叩く事ができた時が、踊り手と叩き手が一つになった瞬間だった。盆踊りは、笑顔の輪を広げる力も持っているという事に気づくことができた。

盆踊り太鼓は古くから伝わる伝統的な行事である。そして、それは私達に温かい雰囲気をもたらしているのである。

現在は、地域の交流があまりなく、『盆踊り』というものに興味を持たない人が増えてきているのが現状である。盆踊りに参加することは、コミュニケーション不足である現代人にとって、いい機会である。多くの人が盆踊りに参加すれば、地域のコミュニケーション力が高まるであろう。そのため、来年はもっと良い演奏が出来るように、私も練習に励みたいと思う。

そして、毎年夏に最高の笑顔の輪が広がれば、きっと『盆踊り太鼓の思い』は皆に伝わるだろう。

〈参考資料〉

● 「今日も盆踊り」 小野和哉 かとうちあき 著

合同会社タバックス

● 「日本の祭り大図鑑 ②先祖とともにすごす祭り」

松尾恒一 著

ミネルヴァ書房